

平成28年度 住之江区区政会議

第3回 魅力・ブランド部会 会議録

○高田ブランディング課長

すみません、そしたら始めさせていただきます。

本日はお忙しいなか、ご出席いただきましてありがとうございます。司会を務めさせていただきますブランディング担当課長の高田でございます。

それでは質疑に入らせていただく前に全体会議同様ですが、本日の議事説明をさせていただきます。

本日の会議では個人情報などの非公開情報が特にございませんので、公開とさせていただきます。また議事録についても公開となります。公表の際はご発言者、ご発言内容についても公表となります。会議中の写真についてもホームページ等に掲載される場合がございますのでご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは進行を中村部会長にお願いしたいと存じます。中村部会長よろしくお願いいたします。

○中村部会長

皆さんこんばんは、ただいま紹介していただきました部会長の中村です。限られた時間でもありますので、活発なご発言と議事へのご協力よろしくお願いいたします。

それではお手元の資料に基づき進めてまいります。

事務局から説明をお願いします。

○高田ブランディング課長

それでは議題1の「平成29年度予算について」ご説明いたします。お手元の資料「平成29年度予算について」をご覧ください。

ブランディング担当所管の3事業について、平成28年度と27年度の取組をまとめております。大きな内容としましては、前回ご説明したとおりですが、その後の事

業進捗を反映し、一部内容を修正しております。修正箇所は下線部の部分でございます。

本日は前回から修正しました部分を中心にご説明いたします。

一つ目の、すみのえアートビートにつきましては9月11日に実施し、盛況のうちに終了いたしました。今回初めてスタンプラリーを行いました。北加賀屋のまち全体に普段にない人の流れが生まれており、アートのまち北加賀屋の魅力をより多くの方に知っていただき、活性化につながるよう、今後さらなる拡充を図ってまいりたいと考えております。

光のワンダーランドにつきましては、部会の皆様方から住之江区の事業であることがわかりづらいとのご意見をいただいておりますので、まずは名称について実行委員会で協議を行いまして、新たに「すみのえ・南港 光のワンダーランド」と改称いたしました。

また花火だけのイベントで終わってしまっているとのご指摘もございましたので、まだ企画段階ですけれども、企業やNPOのご協力も得ながら来ていただいた方に楽しんでいただけるコンテンツを実行委員会で検討しております。

最後の新旧の地域資源によるすみのえ活性化事業は、地域資源がより生かされる方策を探って、今後、春の実施に向け検討を進めております。

以上3事業につきまして、来年度は基本部分を引き継ぐ方向としたいと考えております。また後ほど区長から新たな住之江区将来ビジョンについて説明させていただきますが、区内各所にはそれぞれ地域に根差した個性豊かな歴史的・文化的資源が存在しており、イベントに限らず、まちづくりも含めた広い観点から住之江区ならではのブランド力の向上を図ってまいりたいと考えております。

最後に、前回の部会でもお話をさせていただきましたが、5月の区政会議で杉村委員から住吉区で実施しているような補助事業が住之江区でもできないか、とのご提案があり、この件につきましては事業の自立性等も見据えながら中長期的に検討する旨

のご説明をさせていただきました。前回特にご意見はございませんでしたが、改めて確認させていただければと存じます。

説明は以上になります。どうぞよろしくお願いたします。

○中村部会長

それでは皆様のご意見をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

○小川委員

アートビートって行けなかったんですけど、人数ってどうやったんですか。

○高田ブランディング課長

人数は一昨年と同じぐらいですね。

○峯上係長

大方7、8、000人。

○高田ブランディング課長

7、8、000人です。はい。

○中村部会長

結構ね。北加賀屋のまちにずっと歩いてる方がたくさんおられましたです。

○小川委員

今回、スタンプラリー。

○中村部会長

スタンプラリー、そうです。

○小川委員

集めたら何かもらえるって書いてますね。

○峯上係長

マスキングテープ。

○高田ブランディング課長

マスキングテープ。

○峯上係長

中村造船所をイメージした特別なマスキングテープで、先着700名分用意してたんですけど、もう1時間2時間たたないうちに売り切れるくらい。

○大津委員

私もそこへ行かせてもろたんですけど、スタンプラリーの場所がわかりにくかったです。

○高田ブランディング課長

そうですか。

○大津委員

探しても探してもわからない。

○伊藤委員

目印はなんだったんです、そのときの。

○峯上係長

アヒルです。

○伊藤委員

アヒルの、要するに例えばそれを。

○峯上係長

オブジェを。

○伊藤委員

それが、お店の前の低いところにあったとか、高いところにあったとか。

○峯上係長

行ったら目立ってるんですけどね、北加賀屋まち自身がああいう町なんでちょっとなかなか地図を。

○伊藤委員

アヒルちゃんだったんだ。

○大津委員

それは知ってた。どこにあるかが地図見て行ったけどなかなかわかりづらくて。

○小川委員

スタンプラリーはやってるほうは住んでるとか地域知ってるんで、僕らも言われるんですけども、知らない人はわかるかって。

○中村部会長

つくってる人はそれが知ってるんでわかるだろうと思うんだけども、なかなかわからない。

○高田ブランディング課長

初めての方に。

○大津委員

のぼりみたいなん立てるだけでも。

○高田ブランディング課長

そうですね。わかりやすく。

○小川委員

探しあてるわけじゃないから、サインとかね、こっちみたいなね。なかなか難しいかも。

○中村部会長

わかりやすくね。

○小川委員

自分が今どこにおるか結構わかんないです。

○高田ブランディング課長

そうですね、そこからですものね、初めての方は。

○小川委員

看板とかサインがあってね。どこ行ってるとかわかったらね。途中で確認ができる

かもわかんない。

○伊藤委員

でもあつという間にその景品がなくなってしまうのはどのように対処。

1時間でなくなったとかで、でしたらスタンプラリーを楽しみにまわってらっしゃる方も、ずっとおられたんだと思うんですけど。

○峯上係長

予想以上にはけてしまったんで、テープに代わる対応策っていうのがなかなか用意できなくて。

○伊藤委員

で、おわびだけ。

○峯上係長

そうですね。スタンプラリーの箇所箇所でいろいろマスクとか、イベントが見れますので、今回は景品はないですけど、まわっていただいて。

○中村部会長

あれね、その前日、前々日くらいまでは天気が午後からちょっと危ない予想だったんですわ。私らもお店出したんですけど、ちょっと仕入れを控えてたんですけど、慌ててまた買い出しに行きましたから、すごく良い天気になりましたね。

○伊藤委員

間にね。

○中村部会長

それで、当初の計画よりもやっぱりよく出た。

○伊藤委員

人出が。

○中村部会長

じゃないかなと思います。

○伊藤委員

何か行事するときには、必ずそれがなくなった場合の対応策って、私たちもとるんですけども、ささいなもので構わないと思うんですけど、何かさし上げるって皆様に告知してしまった以上は、さし上げるものを何とか準備してさしあげて。

○小川委員

その1時間、2時間で終わってなんで、3,000とかいるってことですね、下手したら。

○峯上係長

そうですね。

○伊藤委員

だって7,8,000人の動員で来られている方に対して1割でしょ、準備してたのは。でも最初はやっぱりそんなもんなのかしら。

○峯上係長

そうですね、ちょっとね、第1回目やったので。

○安藤副区長

商品にしたらそこそこの値段に。

○峯上係長

なりますね。

○伊藤委員

そういう場合は、例えば、よその企業さんで粗品で余っているものをくださいって最初からもらっていただくとか。何かこうストックもの、まちの中でストックものされたら、じゃあこれ出そうっていうかたちですぐ準備できたのかな。そんなに良いものだったの。

○栗谷総合企画課長

好きな人は好き。

○安藤副区長

今はやってるんですね、あれを何かインテリアに使ったりとか、すごい。そのデザインがラバーダックなので、すごくかわいらしい。スタンプラリーした人しか手に入らへんので欲しいなあと。

○峯上係長

限定品だったのでね。

○伊藤委員

プレミアムつくかもしれない。

○伊藤委員

使わないでじっと持ってる方がどっかにおられるかもしれない。アヒルアヒルアヒルアヒル。ずっとアヒル。

○安藤副区長

ずっとアヒル。

○小川委員

来年もらおうって頑張る。

○伊藤委員

かもしれないですね。また来年アヒルアヒルアヒルアヒルで、準備しなきゃいけない。今年なくなってしまって遅かったからってということで、来年また開催されるときには、遅くて手に入らなかった方が今度早くに。

○安藤副区長

ちょっと実行委員会でまた議論を。

○高田ブランディング課長

振り返り、来週いたしますので、はい。ありがとうございます。

○中村部会長

あと、光のワンダーランドについても、一応名称を「すみのえ・南港 光のワンダ

ーランド」に変更するというので、今回そういう提案になってるんですけど、いかなもんですかね。

○小川委員

変更したところであんまり人気はないと思います。

○中村部会長

そうですか。

○小川委員

あんまり行きたないかなと思うんですけど。名前を変えたところで多分その地域と参画って書いてるところで、人が集まって名前を見てもらったら、ちょっと変わるかもわかんないけど、そういうのがなかったらやっぱり花火見て名前は知らないまま終わるのかなと。

○高田ブランディング課長

今お手元にお配りをさせていただいたのが、今実行委員会でこんなかたちでできないかと検討している案です。

まだ検討企画段階のもので、これがどう展開していくか、これからのものなんですけれども、本当に花火だけで終わらないように、いろんな企業さんですとか、NPOさんのご協力もいただいてこんなことができたらなと今検討しているところなんですけれども、特に、小川さんですとか、伊藤さんですとか、もし何かこういうことができるんじゃないかとかいうのがありましたら、ぜひご意見いただけたらありがたいです。

○安藤副区長

A T Cの人たちと話したんですけど、我々としては、A T Cだけのイベントになるんやったら、出しにくいんですわ。私もちょっとお話もさせていただいて、そういうこと、本当にこれ、エントリー直前やったんですけども、急遽名前変えてくれたので、まずこれが一歩としてですね、A T Cのほうはそれ理解してくれてます。実を言うと

交通局はあまり地域限定みたいなイメージにはしたくないところがあるんですよ。やっぱり広域的なイメージを出したいんで。ただまあ交通局はそこは理解してくれてるんで。一気にはどうかあれですけど、毎年そういうことは振り返って、せっかくやってるやつですから、有効にしていかないとあかんなあと。

○小川委員

名前を知ってもらうくらいしかなくて、実際南港の中入るわけではないですし、すごい大きなイベントやって、花火も上がって子どもも楽しんで大人も楽しんで帰ったイメージとしてはくたくたになって疲れて帰ったイメージしかない。

あんまりやりすぎると南港に来て楽しくて疲れて帰ってきた。疲れたというイメージを持つだけになってしまうんで。だから大きいイベントやっても、そこはまち歩いてくれないのはそういうところが結構あるんで、あんまりやり過ぎんのも。名前だけで良いと思うんですよ。名前だけ知ってもらったら良いんじゃないっていう。名前だけ知ってほしいなっていうだけで良いんですよ。それ以上の効果を求めても難しいですよ。

○高田ブランディング課長

そうですね、難しいですか。

○小川委員

入って歩いてもらわないといけないんです。本当に僕ら住んでて思う、緑が多いとか、ダスターシュートがあるとか、いろんなところに便利なものがあるんですけど、それは入ってもらわないとわからない。それは僕ら住民が頑張ってこれから売っていかないといけないんで。売るにあたって名前がわからなければ場所どこっていうのもあるし、ATCは行ったことあるよ、インテックス行ったことあるよ、調べたときには南港っていうんやって。今度南港ポートタウンからとか、名前、咲州で出てくるだろうから、まち見てもらうとか。そのかわり、見てもらうときはそら僕らが頑張らないといけないんで僕らが自主的にやっても良いんですけど、せっかく予算使ってこう

やって名前も変えていただいてすごいありがたいですけどね。

○高田ブランディング課長

ありがとうございます。

○大津委員

これはあれかもしれませんね。小川さんがおっしゃるようにポートタウンなのか、
咲洲地域ですか、あの地域性よりも大阪市的な、広域的なこのA T Cを中心にしたワ
ンダーランドを大阪市全域的なアピール性があるんでしょうかね。

○伊藤委員

今回、生産元である住之江、っていうそのブランド名が入ることで、これは住之江
なんだっていうのを知ってもらう第一歩でいいと思う。

○小川委員

良いですよ。たぶんA T Cが勝ってしまってるんです。

○伊藤委員

そうなんです。そのかわりでも住之江と南港のこのチョコじゃない違う柄がいいな
と思って。チョコじゃないのがいいなと思って。

○峯上係長

もうこれでエントリーしてるんで。

○伊藤委員

もうこれでチョコでエントリーしてるんですか。

○峯上係長

そうなんです。

○伊藤委員

ああ、そうなんですか。

○高田ブランディング課長

光の饗宴のエントリーが先に来てまして。

○伊藤委員

真ん中やっぱりチョコボなんだ。チョコボっていう言い方もね。

○高田ブランディング課長

本当にご意見いただいて、結果としてすごく良かったなと我々も思っているんです。

○伊藤委員

メーカー名の住之江が入れば。

○高田ブランディング課長

はい。来ていただいた方に楽しんでいただけるコンテンツをとということで、いろいろ考えはじめてはいるんですけども。

○小川委員

ヒアリングでも名前売ったほうが良いと思いますよ。楽しい、しょうもないことでも良いんですけど名前だけでも売ったら良いかなと思って。楽しんで、楽しいから南港なんか誰もそんなイメージは誰も多分持たないと思います。

○伊藤委員

1,800万で花火がもう。

○高田ブランディング課長

180万。

○伊藤委員

180万で、もう花火代でしょこれ。

○高田ブランディング課長

そうです、ほぼ。

○伊藤委員

花火代で終わり。

○中村部会長

あと3番目の新旧の地域資源によるすみのえ活性化事業についてはどうでしょうか。

○高田ブランディング課長

これも今春、この春に予定しておりますので、これから検討というところなんです。

○中村部会長

来春に実施の。

○高田ブランディング課長

あ、そうです、来春ですね。

○大津委員

これはどちらがですか、加賀屋新田の話でしょうか。

○高田ブランディング課長

そうです。

○大津委員

まつりウィーク等は取り上げられないのでしょうか。

○高田ブランディング課長

今見ていただいているのは今年度の事業ですので。まつりウィークはもうあれですよ、終わってるというか。

○小川委員

多分28年度はそれで、今度29年度について。

○伊藤委員

29年度の事業の計画のときに。踏み込んでもらわないと。

○高田ブランディング課長

どこを対象にというのは特にまだ決めてないです。

○峯上係長

事業名称ももうそぐわなくなっているということで、前回のときに話してましたので、その辺整理して、改めて地域資源を発掘していきたいなど。

○大津委員

これも地元の地域では夏場にやりましたけれども、ああいったまつりを夏の暑いときに一回こっきりでやるかっというのがありまして、要するにやはりシーズンを通してやるという考えを。

○高田ブランディング課長

わかりました。

○大津委員

そういうことで、夏だけじゃなくて、何回かやるっていう方向も考えております。まつりが1回で終わるっていうのは惜しいということもありまして。そういった旧来、伝統的な文化的なまつりをできれば年がら年中、春・夏・秋・冬全部できるかどうかわかりませんが、そういった方法がないかということが来年の課題です。特に舞台設営が大変なんですけれども、新しい舞台設営方法を発見しまして、強化段ボールで舞台ができるというのを今年枚方で、枚方市のまちおこしで淀川の河川敷200メートル、そこで強化段ボールで大きな、うちよりも3倍くらい大きい舞台をされて音楽会や、能をやっておられた。そういうのを見に行っただけですけどね。そういった技術的なことを、しかもそれが繰り返し使え、女の人でも設営できる。それだけたんぱたんぱと折り畳んだら倉庫にすんなり入ると。毎年使えると。そういう舞台なんですよ、実際にやってはります。ひょっとしたら使えるのではないかと。そうしたときには複数回開催ということに目途が立つのではないかな、というところが新しい発見です。

○高田ブランディング課長

ありがとうございます。安立のまつりウィークは本当に非常にご尽力されて、後ほど区長からビジョンのご説明いたしますけど、そのあたりのことも載せさせていただいておりまして、今後も区役所としてもどんな形でご支援できるかというのもあるんですけども、バックアップしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは部会長、まとめのほうを。

○中村部会長

まとめるの、また難しい。

○高田ブランディング課長

そうですね。特には、引き続き課題は解決しつつ、基本は引き継いでいくというかたちかなというふうに思っております。そのあたりで本当によろしいかどうかというところなんですけれども。

○中村部会長

よろしいですかね。基本的にはそのまま引き継いでいくということで。はい。それで。

○伊藤委員

名称が変わってくださったことが第一歩。すごい前進だと思います。ありがとうございます。今度こそチョコボ、チョコボを。

○高田ブランディング課長

次のはい、宿題ですね。

○中村部会長

最初に説明ありました補助事業の実施について、事業の自立性を見ながら検討していくということで、まだちょっと具体的になってないので、保留という感じでよろしくをお願いします。